

<全体分析>

試験時間

90分

解答形式

すべてマーク式。

分量・難易（前年比較）

分量（減少・**やや減少**・変化なし・やや増加・増加）

難易（易化・**やや易化**・変化なし・やや難化・難化）

2025年度はPart IのText I～IIIの本文の合計語数が1,145で、2024年度の1,429からやや減少した。

出題の特徴や昨年との変更点

Part I～Vの5題構成に変化はない。PartIVでは、2024年度と同様に「論理クイズ的な問題」が出題された。

その他トピックス

PartVでは、2023年度はSection AとSection Bの2つの区分であったが、2024年度以降、区分がなくなり、共通語補充のみが15問出題された。

＜大問分析＞

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
I	読解総合	「社会的ジレンマにおける協力のメカニズム」 (1,145 words)	内容一致、同意表現選択、空所補充、段落構成。Text I とその内容に関連した2つの短い文章（Text II・III）という構成、および本文の内容から論理的に推論させるものや、3つの文章をリンクさせた形での内容一致型の設問は、この学部独自のものである。	標準
II	文法・語法	語句整序	文章中の5つの空所での語句整序問題。選択肢を利用しながら正しい文を考えることができる。空所を含む文の全体的な構造と、文脈を考えるのがポイントになる。	標準
III	文法・語法 その他	A 空所補充 B 文整序 段落整序	文章中の空所補充。冠詞・論理関係を示す表現・英文の構造などに関する基礎的な知識が問われている。 まず、5つの文を並べかえて1つの段落をつくり、次に、その段落と残りの4つの段落を並べかえる。解答の選択肢はそれぞれ4つずつしかないので手がかりとなる。指示語や論理標識もヒントになる。	やや易 標準
IV	その他	A 内容一致 空所補充 B 内容一致	「論理クイズ」的な要素のある問題。 A では、まず「様々なタイプの誤った推論」を説明する英文が与えられ、その内容の理解と、具体的な事例への当てはめができるかが問われている。 B では、「練習による上達の限界」に関する英文が与えられ、その内容の理解が問われている。	標準 標準
V	その他	共通語補充	語義に続く2つの例文の空所に共通する単語を答える問題。書き出しの1文字が与えられている。思い浮かんだ単語の文字数や、品詞による意味の違いを考えるとよい。	標準

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

＜学習対策＞

出題形式が多様で、しかも独特であるのがこの学部の特徴なので、過去問対策は必須である。読解問題では、文意を論理的に読み取る読解力が求められる。文整序や段落整序も出題されるので、文相互や段落間のつながりを意識して読むことを学習に取り入れておくとよい。また、共通語をはじめ、語彙の知識を問う設問も多いので、単語やイディオムの意味・用法をきちんと習得しておくことが必要である。難解な文章や、紛らわしい選択肢もあるので、手に負えない問題には時間をかけすぎず、最後まで解ききることが重要である。